

全労済の助成金贈呈式 ～ふくせんも参加～

12月24日、全国労働者共済生活共同組合連合会（以下、全労済）による「2010年度社会福祉活動等助成事業 助成金贈呈式」が全労済会館にて開催され、ふくせんを含む全25団体が参加した。

ふくせんでは、今回の助成金と、去る12月15日に全国生協連から受けた助成金を併せ、「福祉用具の有効で安全な利用を支援する福祉用具個別援助計画書等の作成環境の整備」というテーマで普及・啓発事業を行う。この事業では、福祉用具個別援助計画書の作成、継続的なモニタリングを確実に実施することにより、利用者の生活目標の実現及び安全で安心して福祉用具を利用できる環境づくりの整備を目指す。普及・啓発用のパンフレットを製作し、保険者等に配布する予定だ。

全労済が行うこの助成金事業は、1981年より、今回で30回目を迎える。社会貢献活動の一環として、社会福祉に寄与する団体への支援を行うものであり、30年間で交付した助成金の額は10億円を超える。全労済理事長の石川太茂津氏は、「安心できる社会づくりにつながっていけば嬉しい」と、この助成金に対する思いを伝えた。式に同席した厚生労働省社会・援護局地域福祉課課長補佐の荒川英雄氏は、「この助成金は会員、組合員の理解があつてこそ。主旨を理解の上、有益に使っていただきたい」と述べた。

ふくせんでは、福祉用具個別援助計画書等の普及・啓発を通じて福祉用具の安全な利用を促進し、安心できる社会づくりに貢献したい考えだ。助成金を有効に活用し、高齢者福祉の増進を目指して、事業を展開していきたいと考えている。



全労済 助成金贈呈式の様子。



助成金の贈呈を受け、感謝の辞を述べる
ふくせん山本事務局長。